

# 園兒の體育

五四

宮田覺造

最近體育といふ言葉が民衆化されたことは誠に喜ぶべき現象である。個人にも團體生活である學校にも、一般民衆の間にも身體運動を通じて教育が考へられつゝある。我が國民の間ばかりでなく平和主義の列強國の間にも民族發展の上に體育を重視して來るべき軍國主義の道程へと終始努力されてゐることは國民體力の充實を計る爲である。

平和主義の國家政策が國民體力充實に着目され、暗々裡に民族發展を要望して假裝的の平和主義と考へる點は無いでもないが、歸する所は國民體力體位の向上であつて、民族發展の第一義であるといふ事は争ふべからざる事實である。

列強國が競ふて體育の民衆化に最善の努力を拂

つて居ることは、眞の體育充實の道を通つて居るであらうか。列強はいざ知らず、少くとも我が國民の間に流れて居る體育に對する内容を考へて見たならば、偏見であり偏重であると自ら反省せざるを得ない。

體育は身體の修練のみで所要の目的を到達する事は出来ぬ。身體運動即ち體育といふことが體育の全野の如く考へらるゝならば我が國民の將來にとつて憂ふべき現象をとり残すことではなからうか。眞の體育勵行の道に、國民が目覺めなかつたならば先進國である列強に平和といふ二字の假面に大なる敗を招くことではなからうかと考へる。

眞の體育の道に國民が精進し、植ゑつけられた

國民の缺陷を改善し社會も學校も家庭も一致協力して國家百年の礎を築かねばならぬ。

#### △眞の體育は

身體の教育は運動と食物及び休養との三つが整ふて指導されなければならぬ。何れが重要であるかと考へる時には鼎の輕重を問ふ如きもので、我國民の生活から見ても何れも重要なものである。何れが主で何れが副となるべきものではない。

我々は動物であり又人間である。眞に體力の旺盛な身體の所有者とならんとしたならば生れ落つると共にこの三者は相共に適切なる指導をしなければ完全なる發達を遂ぐる事が出来ない。一般家庭に於ても學校に於ても、將又社會の現狀から見て眞に指導をし教育をせねばならぬと考へることは食物及び休養に關する問題である。身體運動に對する最近の傾向は健實なる道を進みつゝあるかと考へる時は正しき發達を遂げて居るとは云

へないけれども、兎に角身體練習と云ふ事が自己の健康を増進して行くことに大切なものであるといふことは體育といふ流行的熟語の爲に考へられつゝある。併しながら食物の指導はどうであらうか。休息に對する國民生活はどうであらうかの二つの問題は身體の教育にとつて我國の現狀から考へて見たならば急の急なるものであると信ずる。殊に幼兒の教育に對しては一層健全なる發育を遂げしむる人間初期の教育として考へなければならぬ。

食物の指導は家庭の指導も大切であるが學校に於ける食物の教育は一層重要である。現時に於ける學校教育では家庭に一任すか或は各自の望むがまゝに任せ置く傾向があることは遺憾に堪えないのである。幼兒は自己の活動に對して満足し得る食物を毎日の食事として居るか。發達進歩の著しい時代に於ける榮養分を攝取して居るか。

甚だ疑はしいばかりでなく學校生活を通じて家庭生活に於ける食物の改善を計らねばなるまい。

食物は發育率の最も旺盛なる時期に於ては一層完全なるものを攝らねばならぬことは明かである。今後に於ける園兒教育に對してこの點に着目され身體運動と共に完全ならしむるやう努めなければならぬ。

次に休息の事であるが吾人の休息は、睡眠が第一義で、睡眠に對する國民の思想は至つて冷淡なものが多い、甚だしきに至つては、自己の睡眠を他人に妨害されて而も、平然として居る傾向が見える。睡眠は活動の源泉であり、自己身體の養護である。大なる活動を欲し充分の發育を遂げんとしたならば充分の睡眠を要するものである。學校に於て睡眠に對する指導は眞に考へもし又指導もして居るだらうか。恐らく手をつけてゐない部分ではなからうかと察せられる、幼兒の完全なる發

育を遂げしむるならば學校に於て適切なる施設と家庭へ計畫的の要望が無ければならぬ。この食物及び睡眠の教育は幼兒教育にとつては重要な點であると信ずる。

身體運動に對して日々の計畫は完全であるとは云へ得ないけれども一般社會の風潮につけ學術的根據の下にそれ／＼考へて居られることではあるがこの事柄と共に食物に對する教育を施し休息及睡眠に對しての指導を完全にすることが眞の體育の勵行であり健全な發育を遂げしむべき身體教育であらうと信ずる。

△日常生活消毒豫防治療の勵行もあり度い身體の健全を保つ上には日常生活に於ける衛生の勵行を計り身體教育を意義あらしめなければならぬ、我國に於ける國民生活の現狀は、清潔な生活とは云ふ事は出來ぬ、學校生活に於ても同様である。身體保護の立場から諸外國の實際と比較し

て、衛生に對する勵行を幼兒の教育から習慣づけ基礎づけるといふことが實に大切なることである。實生活を考へて見れば、住居は黴菌の媒介所となり四肢五體は之が運搬者且媒介者となる。共同生活に於て之等の事實は肯定されぬわけには行かない。随つて身體養護の立場から常に自己の身體及び住居の消毒、疾病の豫防及び治療を怠らぬやう習慣づけねばならぬ。

現時に於ける幼兒教育を考へれば之等の施設が完備して居るだらうか又幼兒に習慣づけやうとして努めてゐるであらうか、園兒の毎日の生活に手や顔を洗ふこと鼻汁をとること、齒を磨くこと、痰壺に痰を吐くこと、日光浴をすること、等は是非共指導せねばならぬ事柄である。

以上が體育に關する私の考へてあつて勿論議論のあることは已むを得ないのであるが、要するに眞の體育といふものは之等の事柄を考慮して始め

て完全の域に達することゝ信ずるのである。

